

# 専修大学が「創立130年」

相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格。専門学校として開学した専修学校(専修大学の前身)の主たる創立者である。米国に留学した4人は異国で出会い、法律学徒と経済学徒のふたつの輪が同じ志で結ばれ、帰国後の明治13年(1880)に専修学校を創立。それぞれの分野で目覚ましい活躍を遂げ、専修学校の教壇に立ち教育に尽力した。4人の「横顔」を紹介しよう(駒井は6面に)。参考文献 専修大学百年史。

## 初代学長・代議士も

相馬 永胤



彦根藩士の家に生まれ、や危機を乗り越え、コロンビア大学を卒業。さらさらがね・1850~1924は、動乱のなかで初志を貫いた不屈の行動家。

明治4年(1871)新政府の命による彦根藩からの欧米視察員に選抜され、米国に旅立った。その後、失明寸前の病にかかり、思わぬ帰国から再渡米など異国での困難



▲ 神田神保町の靖国通り「専修大学前」都電停留所(昭和40年代)

## 創立者の思い受け継ぎ



▲ 明治40年代の専修学校正門

## 大蔵高官や東京市長

田尻 稻次郎



財政学の権威として明治から大正にかけて活躍した経済学者の田尻稻次郎(たじり・いなじろう)1850~1923。専修大学での教育に最後まで力を尽くした。薩摩藩京都屋敷に藩士の三男として生まれた。洋学を学び、長崎に遊学した後、上京。慶應義塾、開成所、海軍兵学校、大学南校に学び、刑部省から留学を命ぜられ、明治4年(1871)、アメリカに渡った。

この間も専修学校で教壇に立ち、高等商業学校(現・一橋大学)でも法律を講義。専修学校では校長を務め、大正2年(1913)「私立専修大学」改称と同時に学長に就任。大学令公布により(1922)、文部省は学制頒布50年記念祝典に際し、相馬と田尻を教育功労者として表彰した。12年の関東大震災では、自宅に仮事務所を設けて復興事業を指揮。授業が再開された矢先の13年1月26日に死去。著書には『英米売買法』『米国訴訟法』などがある。



▲ 大正12年の関東大震災後に建てられた仮校舎の正門前での学生たち

専修大学では多くの子弟に慕われ、東京市長在職時には日曜日にも講義(補講)を持った。ほかに大蔵省銀行局長、主税局長、貴族院議員、大蔵次官、大蔵省総務長官、帝国学士院会員など。40年(1907)には子爵に。

## 日本語で法律講義

目賀田 種太郎



帰国の翌年、専修学校を創立すると、田尻は駒井と共に経済科で教授。「貨幣論」「銀行史」「租税論」「国債論」などを担当した。文部省御用掛を命ぜられ、東京大学でも理財学を講義した。明治13年(1880)に大蔵省入りをしてから、財政学の知識を高く買われた。後に帝国大学法科大学教授を兼任。日本初の法学博士の学位を得る。

大蔵省時代は、日露戦争時に戦費調達、債務処理で功績をあげた。大正7年(1918)、会計選ばれ、明治3年(1870)、17歳で米国に渡り、ハーバード大学で一般法学の大意、国法学を学び、国際公法の研究に意欲を燃やした。同校を卒業し学位を得て帰国。8年(1875)には留学生監督を命ぜられ、生徒を引き連れて再渡米。自らは法律の研究を深めた。

再帰国後、司法省附属代理人となるかたわら、専修学校設立の準備にあたる。専修学校を創立後、目賀田が相馬と共に始めた日本語による法律講義は注目を浴びた。担当は「訴訟演習」「私訴犯法」「弁論科」などで、自ら編纂発展にも貢献した。

- 明治38年●1905 理財科を経済科に改称▽11月 新たに商科を増設 初めての昼間の授業を開始
- 明治39年●1906 9月 学則を改正して大学組織とする。大学部(修業年限3年 経済科、法律科、商科)、専門部(修業年限3年 経済科、法律科、商科)、高等専攻部(修業年限1年)、専門学校令による昼間の高等予科(修業年限1年)
- 明治40年●1907 5月 学校経営を社団法人組織とする▽9月 校舎・校宅を改築
- 明治44年●1911 7月 専門部商科および大学部商科を廃止(昼間授業は高等予科のみとなる)▽11月 創立30周年記念講堂および相馬田尻記念文庫が落成
- 大正元年●1912 9月 相馬田尻文庫を拡張し図書館を開設
- 大正2年●1913 7月 校名を私立専修大学と改称▽同 高等予科を大学予科(修業年限1年半)に、高等専攻部を研究部と改称▽同 相馬永胤校長が初代学長に就任
- 大正6年●1917 9月 専門部に計理科を増設
- 大正8年●1919 9月 校名を私立専修大学から専修大学と改称
- 大正9年●1920 9月 木造3階建て校舎竣工▽12月 大学経営を社団法人から財団法人に組織変更
- 大正10年●1921 4月 大学予科の修業年限を2年とする▽9月 専修大学新印章(現在の校章の原型)決まる
- 大正11年●1922 5月 大学令により認可▽8月 相馬永胤が専修大学初代学長に就任▽10月 学制頒布50年記念祝典で、学長・相馬永胤と学監・田尻稻次郎が教育功労者として文部大臣表彰を受ける。この日(10月30日)を大学記念日として今日に至る
- 大正12年●1923 4月 大学令による専修大学を設置、経済学部および大学予科、既設の専門部、法学部は昭和2年(1927) 開講▽8月 創立者・学監の田尻稻次郎死去(15日)。73歳▽9月 関東大震災により校舎焼失。仮校舎完成まで立教大学の教室借用▽12月 木造平屋建て仮校舎および付属建物等竣工
- 大正13年●1924 1月 創立者・学長の相馬永胤死去(26日)。73歳▽2月 阪谷芳郎が学長に就任▽12月 木造2階建て校舎および図書館竣工
- 大正15年●1926 1月 校歌・応援歌を制定▽9月 創立者・学監の目賀田種太郎死去(10日)。73歳



# 歴史と伝統の上に未来を

## 創立記念日(9月16日)特集

明治13年(1880)9月16日。京橋区南鍋町(現・中央区銀座5丁目付近)の簿記講習所で専修学校(専修大学の前身)の開校式が行われた。専修大学がその産声をあげた日である。

現在、専修大学ではこの日を創立記念日としており、記念すべき130回目の創立記念日に、『専修大学の歴史』が平凡社から刊行される。

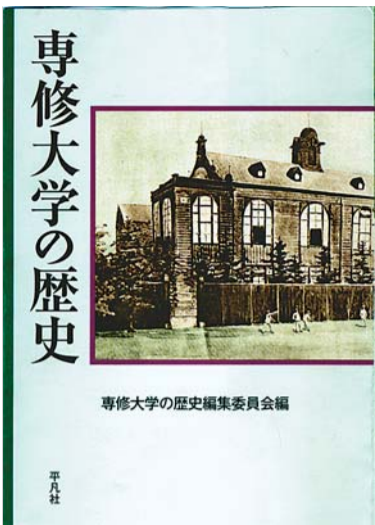
専修大学は法律学や経済学などを教える社会科学系の大学では、慶應義塾、早稲田、駒井重格、彼ら4人の名前は相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田と教育の蓄積を受け継ぎ、専修大学に次ぐ歴史と伝統を持つ。

『専修大学の歴史』は、4人の名前は相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田と教育の蓄積を受け継ぎ、専修大学に次ぐ歴史と伝統を持つ。『専修大学の歴史』は、4人の名前は相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田と教育の蓄積を受け継ぎ、専修大学に次ぐ歴史と伝統を持つ。

『専修大学の歴史』は、4人の名前は相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田と教育の蓄積を受け継ぎ、専修大学に次ぐ歴史と伝統を持つ。『専修大学の歴史』は、4人の名前は相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田と教育の蓄積を受け継ぎ、専修大学に次ぐ歴史と伝統を持つ。

### 近・現代史と共に歩む 学生や校友の活動を活写

専修大学の歴史をひもきく寄与した。とくに、明治初年、米国の知識や情報を駆使した彼らに留學し、ハーバード大学やエール大学大学院などで近代の法学や経済学を学んだ4人の青年が、義録を通して多くの青年に大きな影響を与え、専修大学の歴史を通じて、幕末・明治・大正・昭和、そして平成という時代をより具体的に描くことを心掛けた。それゆえ、歴史に興味を持つ多くのの方々にも、十分、関心を持っていただければ、本書は、これまで専修大学が刊行してきた『年史』をベースにしたながらも、新たな調査や研究結果を踏まえて専修大学130年の歴史を紹介している。大学に属する人々だけでなく、多くの一般の方々にも読んでいただくことを願っている。



専修大学の歴史

専修大学の歴史編集委員会編

## 『専修大学の歴史』刊行

本書は、これまで専修大学が刊行してきた『年史』をベースにしたながらも、新たな調査や研究結果を踏まえて専修大学130年の歴史を紹介している。

本書は、これまで専修大学が刊行してきた『年史』をベースにしたながらも、新たな調査や研究結果を踏まえて専修大学130年の歴史を紹介している。



駒井重格の講述「経済要論」

## 語学堪能、著作多し 駒井重格



専修大学の創立者の一人・駒井重格(こまい・しげい)は、1853〜1901という人物を皆さんとは異なる。残念ながら駒井さんとは異なる。残念ながら駒井さんとは異なる。残念ながら駒井さんとは異なる。

## 専大創立者、一橋の名校長 「駒井重格の軌跡」展

### 12月に生地・桑名市で開催

北地方を転戦した。その後も桑名藩主・松平定教のアメリカ留学に随行し、ラトガース大学で経済学を学んでいる。後に専修学校の設立にかかわる相馬、田尻、目賀田のほか、多くの人がこのアメリカで出会った。特に田尻は同じ経済学を学ぶ者として深い友情を結んでいる。帰国後の駒井は、48年

- ▽会場：桑名市博物館
- ▽会期：09年12月12日(土)〜10年1月24日(日)〈月曜日および祝日の翌日、年末年始(12月28日)〜1月4日)は休館〉
- ▽開館時間：午前9時30分〜午後5時(入館は閉館の30分前)
- ▽入館料：無料
- ▽展示解説：12月19日・1月16日・同23日(各日14時から)
- ◇関連行事◇
- ▽「駒井重格の軌跡」記念講演会・シンポジウム
- ▽日時：10年1月9日(土) 13時30分〜16時30分
- ▽会場：くわなメディアライヴ
- ▽開会挨拶：日高義博理事長・学長/司会：青木美智男専修大学史編集主幹/講演：永江雅和経済学部教授ほか
- ※以上の問い合わせは大学史資料課 ☎03(3265)5879へ

## 専修大学年表

- 明治12年(1879) 8〜9月 田尻稲次郎、駒井重格、相馬永胤、目賀田重太郎が米留學から帰国
- 明治13年(1880) 8月 日本語による経済・法律専攻の専修学校(夜間2年制)設立のため「私立学校開業上申」を東京府知事に提出▽9月 京橋区南鍋町1丁目4番地の仮校舎で開校式(16日)。入学生は51人▽10月 京橋区木挽町2丁目14番地の校舎(明治会堂)の建設が終わり、仮校舎から移る(現在の銀座3丁目)
- 明治14年(1881) 7月 第1回卒業式。卒業生経済科2人、法律科9人
- 明治15年(1882) 11月 神田区中猿樂町4番地の順天求合社の建物を校舎として借用
- 明治16年(1883) 7月 新学期の入学生から修業年限を3年に延長
- 明治18年(1885) 7月 神田区今小路2丁目8番地(現在の神田校舎敷地)に校舎を新築、移転
- 明治19年(1886) 12月 私立法律学校特別監督条規により、専修学校など5大法律学校が帝国大学総長の監督下におかれる(明治21年同条規廃止)
- 明治20年(1887) 1月 校外生制度を設け、3年修業者に校友証を交付▽同 同窓会第1回親睦会を開催。規約を制定・発定(昭和25年専修大学校友会と改称)
- 明治21年(1888) 6月 経済科を理財科と改称▽8月 特別認可学校規則による特別認可学校になる(明治26年同規則廃止)▽同 校長制が敷かれ、相馬永胤が就任
- 明治22年(1889) 9月 政治科を増設(明治24年廃止)
- 明治24年(1891) 9月 法律科の生徒募集を休止
- 明治25年(1892) 9月 法律科の生徒募集を再開
- 明治26年(1893) 9月 法律科の生徒募集を停止、理財科のみとなる▽12月 判事検事登用試験規則による司法省指定学校となる(明治35年まで)
- 明治34年(1901) 12月 創立者 駒井重格死去(9日)。48歳
- 明治36年(1903) 11月 専門学校令により認可